

令和7年11月25日

令和7年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和7年11月25日（火曜日）午後2時から

1 出席委員（4名）

小 黒 仁 史	教育長
高 橋 幸 子	委 員
深 澤 佳 己	委 員
北 内 英 章	委 員

2 出席職員（11名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	小野澤 行 平
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
学務課長	八 木 弘 樹
指導課長 (幼児教育センター所長 兼務)	木 下 健太郎
指導企画担当課長	志 賀 克 哉
学校支援担当課長	長 岡 誠
教育センター所長	早 田 由香史
大田図書館長	杉 村 由 美

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

(午後2時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和7年第11回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

なお、三留委員、藤井委員につきましては、あらかじめ本日欠席の届出がありますので、ご報告いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様に傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願ひいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に高橋委員を指名いたします。よろしくお願いします。

それでは、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日は、3点ご報告申し上げます。

まず、1点目は、各学校における研究推進校の研究発表会についてです。秋は、この研究発表会と周年行事が多いですが、それぞれ充実した研究の発表会が行われていたと思います。

まず、10月30日の東蒲小学校です。これは、教科担任制を活かした授業づくりを進めています。おおたの未来づくりなどを中心に、教員が専門性を活かして、児童一人一人の活躍の場を確保して指導を行っておりました。

東蒲小学校は、やや少人数ですが、こどもたちが役割を持ってグループでしっかりと話し合って授業を進めている様子がよく分かりました。先生方も主体的に自信を持ち、チームワークよく指導しているのが、印象的でした。

次に2校目、11月6日矢口東小学校の発表ですが、こちらはキャリア教育の発表でした。キャリア教育というと、働くことに対して、キャリアを積んでいく勤労体験などがあ

りますが、この学校では、こどもたちの自己肯定感や自信を育んで将来の職業選択につなげていくような基礎づくりをしていました。先生方が、主体的に研究会等で知識を集めて動いている様子がよく分かりました。

また、私が非常に印象に残ったのは、キャリアカウンセリングで、一人一人のお子さんにコメントを入れて丁寧に一人一人の良さを見取って書いているところが、非常に印象的でした。

3校目は、11月18日の入新井第一小学校です。ここは、自由進度学習という、学期に1回、こどもたちが主体的に課題を選んで、自分たちの方法で学習を深めていく学習に挑戦しておりました。

入新井第一小学校は、新校舎に移ったばかりですが、この自由進度学習を進めるにあたって、教員が学習を進められるように、資料等を工夫して展示していました。新たな新校舎のオープンスペースの部分が、それぞれ学習のテーマのコーナーになっていて、工夫されていると思いました。先生方が熱意を持って、たくさんの資料を集めて、こどもたちの主体的に学習を進めていく力を育てているのだと思いました。

4校目は、羽田小学校で、11月20日に行われました。羽田小学校は、人権の教育をずっと続けていますが、その積み上げが活かされていると思いました。特に、言葉の力です。言語力を付けて、新聞を取り入れた教育や、MIMのような新たな取組を取り入れていました。長年研究を積み上げて、一人一人のこどもたちの学習をしっかりと見ていく、充実した学習が行われていたと思います。

研究発表会に行って、どの学校も、先生方が熱意を持って取り組んでおりました。どの分野も、積極的に自信を持って取り組んでいて、その教師の創造性がこどもの創造性へつながっていくと思いました。これから学習を開いていくという意気込みが、こどもの姿に表れていたと思います。

また、講演があり、文部科学省等から最新の情報をいただきました。これは東京にあることの強みだと思います。一時、新型コロナウイルス感染症が流行した頃は、このような教員の参加は限られておりましたが、今は何百人という人が来て、話を聞くこどもの様子を見ておりました。

研究推進校の授業は、実践的に先生たちが研究に取り組んで、こどもの姿を見せるという意味では、効果のある施策だと思いました。指導主事等が指導しておりますが、教育委員会として、さらに充実していきたいと思いました。

2点目の報告は、周年行事です。11月8日は、萩中小学校の70周年でした。この萩中小学校の70周年で一番印象に残ったのは、こどもたちと先生が作った羽田の歴史の資料です。スライドや映像等もたくさんあり、それをつないで、羽田の歴史や萩中小学校の歴史を紡いでいました。中には羽田空港の移転に対応する様子など、十分な資料の中で、私も初めて知ることがあり、勉強になりました。

それから、11月15日は山王小学校の100周年の行事に参加しました。山王小学校は、初めは入新井第三小学校という名称もありましたが、かつて井上馨の屋敷があった場所を関東大震災以後、人口が増えて、活用したようです。

それで、山王小学校の100周年行事ですが、山王の地位そのものが、文化性の高いと感じました。大森貝塚が150周年であり、山王小学校の校舎の下には、縄文人の住居跡があ

ります。

また、井上馨の屋敷跡や、馬込文士村の一角にあり、文化人、詩人、作家などがいた所で、そのような文化性の高さが、今のこどもたちの学習意欲にもつながっているという印象を受けました。

それから、11月22日は、田園調布小学校の100周年行事でした。田園調布小学校は、渋沢栄一さんが、田園調布の街を開発した駅ということで、日本を代表する街の一つだと思いますが、文化性の高い所であると思います。

今、改築工事に取り組んでおり、私からは、駅伝大会で田園調布小学校が優勝したことを、体育の研究に取り組んでいる成果ということで、話をさせていただきました。文武両道、知・徳・体、調和の取れたこどもの育成に取り組んでいるのが大変印象的でした。

周年行事に3校へ行かせていただきましたが、どこもそれぞれの歴史があります。印象としては、地域には、こどもたちが学ぶべきことがたくさんあると思いました。そのようなことをしっかりと学んでいくことが大事で、おおたの未来づくりなど地域と一緒につながっていきますが、まだまだ地域には、歴史や文化がたくさんあるので、それをしっかりと伝えていくこと、または、こどもたちがそれを受け、次の社会づくりに取り組んでいくことが必要だと思いました。

周年行事については、以上でございます。

最後に、10月26日、池上会館で今年の中学生海外派遣の報告会がございました。セーラム市、それから、ジューンダラップ市とともに、自分たちが体験したことを英語で話をしていました。結団式のときには、自己紹介、自分の名前と好きなことを言うのが精一杯のように感じましたが、この海外派遣を通して、英語で話すことに自信を持っていることがよく分かりました。ますます、この体験を活かしてくれること、多くの友達に伝えてもらうことが大事だと思いました。

私からの報告は、以上でございます。

委員の方々から、いかがでしょうか。

○深澤委員

私は、4点報告をしたいと思います。

一つ目は、10月27日から29日に行われた、東調布第一小学校と清水窪小学校の移動教室に同行したことです。指定管理者や料理を担当している方たちと意見交換をしました。移動教室における課題として、清掃事業者の高齢化や人手不足により、時間内での清掃・消毒作業が困難になっていること、複数重度の食物アレルギーを持つ児童が増加傾向にあること、食材の原材料費の高騰、そして、クマ対策の難しさが示されました。

今年、施設周辺でのクマの目撃情報はないものの、クマ対策として、早朝、夕方、キャンプファイヤーの前に大きな音が出るホーンを鳴らして、クマを遠ざける方策を取っていました。

今年は、全国でクマによる被害が多数報告されていますので、クマが施設に近づかないように工夫し、森林体験の際には、クマ撃退スプレーや鈴を持参しているということでした。施設の方たちは、皆さん、こどもたちの移動教室の目的を達するために、細やかな心遣いをしてくださっていることに感謝いたしました。

ただ、意見交換の中では、様々な課題も示されましたので、今のようなこどもたちにとって良い形での移動教室が、永続的に継続できるように協議をしながら、進めていただきたいと思いました。

二つ目は、10月30日に行われた東蒲小学校の研究発表会のことです。中央教育審議会委員の堀田龍也先生が、次期学習指導要領改訂に向けての話を交えながら、東蒲小学校の研究について講演をされました。これからのかどもたちに必要とされる、未来を切り開く力を育成するためには、実体験とICT、どちらも大切にすることが必要です。

ICTを通じた体験も有益で、その理由は、他者参照によって学習が促進されるからであるというお話でした。5年生のおおた未来づくりでは、東蒲小学校オリジナルブレンド茶である、とうめ茶の開発と販売についての実践事例の紹介がありましたが、その活動では、事業パートナーであるお茶屋さんの店舗を実際に訪れてお茶をいただき、お茶にブレンドする梅を実体験するため、梅とゆかりのある北野神社にも赴いた上で、コンセプトを設定していました。

デザイン段階では、お茶の味を決めるパッケージや販売価格を決めるなど、児童による多くの議論や検証の上決定し、製品の梱包、出荷、実店舗での販売と進んでいきましたが、その過程では、様々な場面でICTを活用して、様々な方の意見を取り入れていました。

堀田先生が指摘されたように、体験の中にテクノロジーが共存しており、次期学習指導要領で情報技術の活用の先駆的な学習であり、まさに、未来を切り開く力を育む学習であると思いました。

私もとうめ茶をいただきましたが、小学校5年生がデザインしたとは思えない味わいがあり、ほんのりと梅の香りがするおいしいお茶でした。

3点目は、11月14日、改築した安方中学校の見学に行きました。令和元年度から全面改築に着手し、本年2学期から新しい校舎で授業が始まりました。設計にあたってのテーマは、「豊かな人間性と未来を創造する力を育む学校」であり、改築中の教育環境にも考慮して工事が進められたとのことでした。具体的には工事期間中の体育館の利用、自校給食の継続、校庭の使用です。

そして、工事終了後、校庭は、既存と同等以上の面積を確保することができると説明を受けました。校舎は、吹き抜けの行き違い階段があり、教室が周りを囲むようになっており、現代風の斬新なデザインとなっていました。

また、各学年の間にオープンスペースを設けられており、休み時間の学生たちの居場所となっており、使い勝手もよく考えられていました。

図書館には、今話題の国宝や歌舞伎の本がディスプレイされていました、中学生が好みそうな本が様々置いてあり、司書の方のセンスの良さが伺えました。

また、安方中学校は、図書室に置いてある本と給食がコラボレーションされており、給食を味わった後、本の中でどのようにその料理が登場するかを楽しむことができます。学生を読書にいざなう工夫がされていて、ソフト面でも、とても良い教育環境がつくられていると感じました。

学習面における特徴的な教育環境としては、前面と横面に仕切りのある机を備えて学習室が設置されたことです。実際に、放課後、学生が学習室を利用している様子を拝見しましたが、学習室では、見守りをする学生やPTAの方がおり、勉強を教えてもらうことが

できることのようにもなっていました。

今回、安方中学校を見学して感じたことは、校舎の改築によるハード面に加えて、実際の運用において、教育の現場に携わる先生方がより教育効果が向上するように工夫をする、PTAや地域の方々がその工夫を支えるというような、学校に携わる様々な方々の努力を伴って、初めて校舎を改築したポテンシャルが高まるのだということです。安方中学校が、今後、どのようにそのポテンシャルをますます高めていくのか、見守っていきたいと思います。

四つ目は、11月18日、入新井第一小学校の研究発表会に参加したことです。研究発表会のテーマは、先ほど、教育長からご紹介がありましたが、自由進度学習の可能性を探るというもので、児童たちは、学習計画表に基づいて自分のペースで教科内容を学び進める方法で、学習を進めていました。

児童たちは、自分で2教科を選び、学習マップを自分のペースで進めていきますが、進度の速い子は、学習マップを終えてパワーアップミッションに進むことができる。進路の緩やかなお子さんは、学習マップをじっくりと進めていくことができます。授業風景を見ていると、一人一人が自分の課題と向き合って、自律的に勉強を進めていて、楽しそうでもあり、没頭しているようにも見えました。

本校の研究発表をご指導された上智大学の教授の奈須先生によると、自由進度学習は、令和の日本型学校教育で提起されたものであり、その背景には、不登校の拡大と多様性の拡大があったとのことでした。

すなわち、今年、不登校児童生徒が35万人との統計結果が出ましたが、広域通信制高校に通う生徒の増加に鑑みると、必ずしも不登校児童・生徒が学びたくないわけではありません。

また、多様性が拡大した現代社会において、今の中間層に焦点を当てて行われる指導では、中間層以外の生徒たちは、勉強への満足度が低く、何のために学ぶのか分からぬので、自分のペースで自分に合ったやり方で見通しを持って自律的に勉強したいという気持ちを尊重する必要があるということから、自由進度学習が推奨されるようになったと説明されていました。

自由進度学習では、教師が教えるのではなく、学びをアシストし、幼児教育で行われるように、児童の学びの意欲を高めることを目指して、特別支援教育で行われるように、その子に必要な教材、指導方法、時間の確保を行い、生徒が試行錯誤する時間を大切にし、自律を促すことを目指しているとのことでした。

本校の児童たちは、とても意欲的に自律して学習に取り組んでいましたし、伴走する教師も、自ら率先して児童の学びを高める工夫をしており、児童にとっても、教師にとってもとても良い研究発表会だったと思いました。

○教育長

ほかにありますでしょうか。

○高橋委員

私からは、5点、報告したいと思います。

10月26日、中学校生徒海外派遣報告会です。保護者、学校の校長先生方が見守る中、現地での様子を視聴し、その後、グループ別に報告がありました。アメリカコース、オーストラリアコース、それぞれ生徒の発表は、英語力に感心し、しっかり研修し、大いに楽しんでいて、海外派遣の充実した思いが伝わってきました。

私は、羽田中学校の文化祭に伺いましたが、そこでの発表は、二人が映像とトークを交代で通訳しながら、全校生徒に海外派遣を報告して、チャレンジを進めていました。

次に、10月27・28日で大田区休養村とうぶの移動教室を視察しました。東調布第一小学校、清水窪小学校が2泊3日で実施した様子を見学しました。天候に恵まれ、キャンプファイヤーや飯ごう炊さんをし、初めての体験だったと思いますが、担当別に楽しんでいる様子でした。2校が重ならないように施設を分け合っている様子が、印象的でした。

次に、研究発表会です。10月30日、東蒲小学校の研究発表会では、学習指導案には、児童アンケート調査の結果をグラフにして掲載していました。自分の持ち味を活かして挑戦しようとしている、友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている、タブレット端末で情報を収集し、自分の考えをまとめ、発表することができるの3点です。児童の実態に合わせ、アンケートの結果を分析していることは、指導の手立てにつながり、大切だと思います。授業参観の中で感じたことは、低学年のタブレット操作に支援が必要だと感じました。

11月6日、矢口東小学校です。キャリア教育を様々な教科で実践した授業を、全学級で参観しました。キャリア教育目標の気付く力、伝える力、チャレンジする力、つなげる力のカードを黒板に示し、各授業の目標を示していました。今回の各授業で多かった伝える力は、低学年は、「自分の思いを伝えることができる」、中学年、「自分の考えを分かりやすく伝えることができる」、高学年、「場に応じた伝え方ができる」、特別支援学級、「自分の気持ちや考えを伝えることができる」としています。生き生きとして、自信をもって、自己肯定感を高めていく学習活動だと思いました。

キャリアパスポートも各クラスに掲示しており、児童の素直な気持ちや先生方の丁寧なコメント、また、保護者のコメントも記入され、大切な宝物になると感じました。各教室と体育館とともに、多くの参加者でした。キャリア教育スタートアップガイドブックも配布され、参考にしてもらえると思いました。

次に、11月15日の山王小学校開校100周年記念式典祝賀会に出席しました。式典の児童たちが、とにかく立派でした。金管バンドで始まり、それぞれの所作がそろっていて、一人一人、自信にあふれた歌声がすばらしいものでした。

祝賀会は、多くの方々が集まり、ハープの演奏やサンバチームのパフォーマンスで出席者が一つになった楽しい会でした。卒業生が司会者やパフォーマンスで参加している祝賀会は、100周年の歴史を感じました。

次に、学校訪問についてです。11月14日、安方中学校を訪問しました。新校舎での授業参観、学習室の開設状況などを見させていただきました。生徒一番の対応や学力向上につながる環境づくりなど、新校舎のメリットを最大限に活かした学校生活とオープンスペースの活用など、生徒たちの楽しそうな様子が印象的でした。

指導訪問は11月17日、松仙小学校に同行しました。先生のタブレットから児童に資料を転送して共有したり、算数の授業では、教え合う学習を参観しました。児童は素直で、

授業では前向きに取り組んでいました。

分科会での指導・助言は、充実していました。謝辞の中で自分たちを褒めてもらえてうれしかった。このうれしい思いをこどもたちに向けていきたいとあり、大切なことだと思いました。

11月4日は、大森第五小学校の指導訪問です。グループや一人など、机の配置変更もとてもスムーズにできていました。主体的・対話的な学び、ICTの活用が、指導訪問の重点項目です。分科会がとても充実しています。指導が、具体的で分かりやすいと感じました。

○教育長

ありがとうございました。ほかにありますでしょうか。

○北内委員

私からは、3点報告いたします。

最初に、海外派遣報告です。10月26日、令和七年度 大田区立中学校 生徒海外派遣報告会に出席しました。本事業は、「おおた教育ビジョン」の取り組みに則り、海外でのホームステイを通して、外国の生活や文化の理解を深めるとともに、外国語の習熟を図り、国際社会において信頼と尊敬を得られる人間性豊かな生徒を育成することをめざして実施しています。

大田区立中学校第2学年の生徒56名（各中学校2名ずつ）を、12日間海外に派遣しました。アメリカ合衆国セーラム市（本区姉妹都市）に28名の生徒が、オーストラリア連邦ジューンダラップ市に28名の生徒が訪問しました。

ホームステイ先では、日本の伝統文化を紹介し、交流を深めたそうです。ある生徒の報告では、書道を紹介しました。書道は書写と異なり、文字の美しさだけでなく、個性を出して書くことができるので、海外の方にも親しみやすいと考えたそうです。どの生徒の英語によるプレゼンテーションも素晴らしい、年々、英語力が向上していることがよく分かりました。

本事業の実施にあたり、現地で派遣団をお世話いただいた方々・関係者の皆さま、引率していただいた校長先生及び教員、事前研修の講師、そして多大なご支援を賜りました伊藤奨学会に感謝申し上げます。

次に、周年行事です。11月8日萩中小学校開校七十周年、11月15日山王小学校開校百周年、11月22日田園調布小学校開校百周年に、出席しました。

厳かな空気の中での式典では、児童は、萩中小学校では合唱、山王小学校では金管合奏と合唱、田園調布小学校では合唱と朗読を通して、過去から現在そして未来に向けた言葉を発表しました。各校、とても素晴らしい発表でした。華やかな祝賀会では、地域の方々、歴代PTA関係者、歴代校長先生・教職員が昔話に花を咲かせました。

周年行事は、とても大切な行事です。厳かな空気の中での式典は、こどもたちを成長させます。また、式典を通して、児童・生徒一人ひとりが、多くの人に支えられ地域の一員であることを自覚し、地域への愛着が深まり責任感を育みます。祝賀会は、縦と横の人との繋がりをより強固なものとし、ひいては地域力を更に醸成することになります。

周年行事の開催にあたり、校長先生をはじめ教職員の皆さん、PTA・実行委員会の皆さん、関係者の皆さまのご尽力に感謝を申し上げます。

最後に、連合スポーツ大会です。11月21日、大森スポーツセンターで開催された第1回 大田区立中学校特別支援学級 連合スポーツ大会について報告します。本大会は、昨年度までの連合運動会と連合球技大会を統合し、今年度から新しく開催されました。区内10校の中学校特別支援学級の生徒が集い、ソーラン節とバスケットボールを通して交流し、体力の向上を図ることが目的です。

ソーラン節では、各学校が思い思いに工夫を凝らして大変迫力のある発表でした。また、終わった後の「やりきった」という充実感に満ちた表情が、とても素敵でした。バスケットボールでは、白熱した試合が繰り広げられ、最後まであきらめず精一杯頑張りました。そして、試合が終わったら、気持ちのよい挨拶をして、互いの頑張りを称えあっている姿が素敵でした。

大会の運営にあたり、看護師と付添者の皆さん、そして中学校特別支援学級設置校の校長先生をはじめ教職員の皆さまのご指導とご尽力に感謝を申し上げます。

○教育長

ほかにありますでしょうか。よろしいですか。

○教育総務部長

三留委員からの報告を書面にて預かっておりますので、代読させていただきます。
よろしいでしょうか。

○教育長

はい。よろしくお願ひします。

○教育総務部長

今月は、これまで、教育委員として、指導訪問に2校、研究校の発表会1校、周年行事2校に参加しましたので、報告いたします。また、学習指導要領の改訂に向けて、中教審等で審議が進んでいます。今後の教育の方向性と区としての対応について考えを述べさせていただきたいと思います。

はじめに、指導訪問についてです。

11月4日は、大森第五小学校の指導訪問に同行しました。

良い学校環境の中で、こどもたちが落ち着いて学習に取り組んでいる、という印象をもちました。発表・話し合い活動・作業的活動・実験調査の活動・グループによる協働など、様々な学習活動が見られ、ICTを活用した授業改善も進んでいるように感じました。

11月20日は、北糀谷小学校の指導訪問に同行しました。

北糀谷小学校は、3年生以上で、教科担任制をしていて、それぞれの担当の教科の授業を参観しましたが、一人一人の教師が、専門性を高めつつ授業力を高めているように感じました。どのクラスの授業も、学習の流れがしっかりと示されていて、こどもが見通しを持って学習ができていました。

これまで、指導訪問は、何度か同行させてもらっていますが、良いと思うことの1つに分科会での講師の指導があります。講師が、3時間にわたって授業を見ることで、一人一人の教師の授業観察時間が多く、きめ細かい的確な指導ができていたことです。多くの担当講師が、プレゼンを上手に使って、授業の具体的場面の写真等を示して指導するなど、一人一人の教師の授業改善、資質向上に繋がる分科会となっていたと思います。空き時間の教師が他の教師の指導について学び、分科会に参加できるのも良いと思いました。

指導訪問につきましては、昨年度までは、20数校程度ということでしたが、今年度から、指導主事の他、スティーム教育専門員、理科指導専門員、外部有識者を加え、全ての小中学校で実施できるようになり、内容が極めて充実していることで、大田区全体の教育力向上に寄与できていると感じました。

良い取り組みを推進していると思います。

研究発表会は、矢口東小学校の研究発表会に参加しましたので、感想を述べます。

矢口小学校は、「自分からやってみようと思える児童の育成」をテーマとした、キャリア教育の研究をしていました。

特別活動を要として、各教科等教育活動全体で実践に取り組むというのが特色です。

キャリア教育で育てる力として、「気づく力」「伝える力」「チャレンジする力」「つなぐ力」の4つの力を独自に設定し、低・中・高学年・特別支援学級ごとに段階的に目標を設定していたのが特色になります。公開された授業の指導案には、「キャリア教育の目標との関連」が示され、意識して指導することで、児童が4つの力を着実に高めていくのではないかと感じました。実際の授業では、児童一人一人が、伝えることを意識して主体的に取り組んでいました。

矢口東小学校では、キャリアパスポート、キャリアカウンセリングなどでも特色ある取り組みを進めていました。

中教審で、キャリア教育は、「キャリア発達を促す教育」と定義して以来、進路指導的な取り組みから、生き方教育につながる実践が多くなってきたと思っていますが、矢口東小学校の取り組みは、子どもの生き方まさしくその方向で、子どもたちの社会的な自立に向けての実践が着実になされていると思いました。

研究物の中には、「キャリア教育スタートアップガイドブック キャリア教育はじめの一歩」があり、研究の進め方等が、わかりやすく書かれています。各学校で、キャリア教育を推進するにあたって、矢口東小学校での取り組みを、是非参考にしてほしいと感じました。

次に周年行事に参加した感想を述べます。

萩中小学校、山王小学校の式典に参加しましたが、どちらの学校も厳粛な雰囲気の中、中身のある素晴らしい式典でした。共通して言えることは、子どもの態度が大変立派で、真面目に取り組んでいたことです。また、それぞれの学校で、式典前、式典中の子どもの活動も特色があり、式典を盛り上げていました。映像を交えた呼びかけ形式のよろこびの言葉、金管楽器の演奏など、学校それぞれが素晴らしい取り組みで感心しました。校長式辞、来賓の祝辞も学校の沿革等をもとにした、含蓄ある話で、子どもたちも真剣に聞いていました。

2つの学校の式典に参加して、節目節目に、周年行事を行う大切さを感じました。

最後に、中教審等での今後の教育の方向性が明らかになってきている中で、区としての対応等、考えを述べさせていただきます。

9月に中教審の教育課程企画特別部会から、指導要領改訂の基本方針となる論点整理の素案が出されました。これまでと変わらない点と大きく変わる点が明らかになってきました。新しい学習指導要領については、2030年度あたりで実施されることになると思いますが、大田区として、今から対応について考えておく必要があるとも考えています。

論点整理素案の最初に「改定論議を貫く3つの方向性」が示されていますが、その第一が「主体的・対話的で深い学びの実装」となっています。

「主体的・対話的で深い学び」については、現行学習指導要領下でその大切さが指摘され、大田区においても多くの学校で研究等に取り組み成果をあげているところです。指導訪問などで、教職員の授業を見ても、課題解決型の取り組みが多く、こども主体の学習となるよう授業改善が進んでいるように感じています。大田区教育委員会として、これからもこども主体の能動的学びが充実するよう各学校の指導・支援を図ってほしいと思います。

3つの方向性の第二は、「多様性の包摂」です。これに関わっては、いくつかの新しい施策が示されました。これまで、ややもするといわれてきた「横並び教育」からの脱却の姿勢が強く打ち出されているとも感じました。

例えば、不登校や特異な才能を持ったこどもに特別なカリキュラムを編成できる特例が盛り込まれました。実施までには様々な課題がありますが、区としての考え方は、しっかりと持っておく必要があります。

「調整授業時数制度」と銘打った新たな取り組みも示されました。

「調整授業時数制度」とは、各学校が教科等の授業を増減しやすくする制度で、ある教科のコマ数を削って、他の教科に上乗せするというような運用を想定しているといいます。特色ある探究学習、大田区でいえば「おおたの未来づくり科」や研修の時間にも充てることができます。判断するのは、各校になりますが、指導・生徒の実態から、課題のある教科は何か、削る教科をどうするかなどの検討が必要になります。これについても、今から対応を考えておく必要があると思います。

新しい教育を巡っては、「情報活用能力の抜本的改善」など他にも多くの課題があります。令和30年度に始まる、正式な教科書として認められることになったデジタル教科書への対応の準備も必要になります。最終的には、紙かデジタルか学習内容を紙とデジタルにわけて掲載するハイブリッドの3つの形態から教育委員会が選ぶとしています。これについては早めの検討が必要になると思います。

来年夏には、中教審としての答申が出される予定ですが、新しい教育の方向性を巡って今から意識して、対応・準備していく必要があると考えています。

○教育長

ありがとうございます。

ほかに何かご質問は、ありますか。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、本日の日程につきましては、以上でございます。

これをもちまして、令和7年第11回教育委員会定例会を閉会といたします。

令和7年 第11回 教育委員会 定例会 11月25日(火) 午後2:00~

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

- 教育総務部長
- 参事（教育施設担当）
- 教育総務課長
- 教育施設担当課長
- 副参事（教育地域力担当）
- 副参事（教育施設調整担当）
- 学務課長
- 指導課長
- 指導企画担当課長
- 学校支援担当課長
- 教育センター所長
- 幼児教育センター所長
- 大田図書館長

令和 7 年 11 月 25 日

令和 7 年第 11 回教育委員会定例会日程

日程第 1 教育長の報告事項